

九条はらまち

福島県南相馬市「はらまち九条の会」 **No.222**

2013(平成25)年 8月15日(木)発行



○1945(昭和20)年8月15日の終戦から68年。日本武道館での全国戦没者追悼式の安倍首相の式辞は、1993年の細川護熙首相以来の「アジア諸国への戦争の加害責任」や「不戦の誓い」には言及せず、ただ国内戦没者の追悼だけの、偏狭な歴史認識を表すもので終わった。

「米国の戦争に引き込まれたいと本当に思っているのか」

アメリカの社会派映画監督 **オリバー・ストーン監督(66)**

日本の憲法改正の議論が政権側から提起されているが、この動きをどう思いますか？



「日本の改憲は、日本が米国との軍事的協力関係を強化し、米国と軍事行動を共にすることを意味するのであれば、それはとても危険な道だということだ。日本の国民は米国の戦争にさらに引き込まれたいと本当に思っているのか。私はそうは思わない。」 (2013.7.26「朝日新聞」の質問に答えて)

○オリバー・ストーン<写真>は、1946年生まれの米映画監督。ベトナム戦争に従軍し、その体験を元にして、社会派監督として『プラトーン』(86年)、『7月4日に生まれて』(89年)でアカデミー監督賞を2回受賞した。

○昨年、第2次世界大戦前夜の1930年代からオバマ大統領までの現代史を、ドキュメンタリー「もうひとつのアメリカ史」(全10本)に制作。特に日本への原爆投下には、当時の米政権内でも反対は多く、原爆を使わずに日本を降

伏させることができたのにあえて使用した、という経緯を明らかにして注目され、BSでも放映されました。

○8月4日から広島を初めて訪問。広島平和記念資料館、平和記念公園や原爆ドーム訪ねた。

「いまここであの日の瞬間、爆風を感じている」「瀕死の被爆者がさまよっていた」と、脳裏に浮かんだイメージを表現。さらに若い世代には核廃絶のために、「広島についてもっと学ぶことだ」と。長崎原水禁大会に出席、沖縄も訪問。

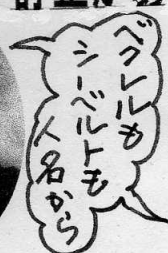
●日本って、こうした「外からの刺激」や「外圧」でしか、改革や変わることができないのでしょうか。

小出裕章先生講演会 <講演会要旨・会報No.217>に訂正があります

小出先生からのご指摘がありました。次のように訂正をお願いいたします。会報No.217の表ページの右側・⑤の4行目、「4号機の爆発で放出されたものだけでも」は削除して、「この政府の評価は過小評価で」と書き直す。また9行目の「実はその千倍も大量に放出しています」は、「事故当時はその一千万倍も放出していました」です。事務局のミスですが、お詫び申し上げます。



アントワーヌ・アンリ・ベクレル (1852～1908年)
放射線を発見したフランスの物理学者。



ロルフ・マキシミアン・シーベルト (1896～1966年)
放射線防護学の研究に多大な功績を残したスウェーデンの物理学者。

▼訂正した文は

⑤ 福島原発事故についてIAEAへの報告書では、広島型原爆168発分の、主にセシウム137を含む放射性物質を放出したとあるが、この政府の評価は過小評価で、その2倍から3倍の放出があったと考えられる。そしてなお、4号機内にある放射性物質は原爆1万数千発分に相当します。さらに現在も放射能物質を毎時千万ベクレル、事故当時はその一千万倍も大量に放出していました。

ベクレル 放射能の強さを表す単位。
1秒間に1個の割合で原子核が崩壊する時の放射能の強さを、1ベクレルとする。
シーベルト 放射線の人体や生物に対する被曝の影響を表す尺度。100レム。
1シーベルト=1000ミリ(m)シーベルト
=100万マイクロ(μ)シーベルト
1マイクロ(μ)シーベルト
=0.001ミリ(m)シーベルト
=0.000001シーベルト

